

群 教 セ	G11 02
	平 16.220 集

# 個々の生徒に合った進路選択を 支援する進路指導の工夫

## 相互交流型ワークシートの作成と活用を通して

特別研修員 柿沼 智恵子（群馬県立前橋東商業高校）

### << 研究の概要 >>

本研究は、独自のワークシートを作成し、活用することにより、高校生の進路選択を支援することを目的としている。特徴としては、交換形式のワークシートを作成・活用することで、生徒が自分を見つめ、自分に合った進路選択を行うことを支援し、担任も生徒の特性に気づき、また、生徒とコミュニケーションを図りながら、進路指導を行うことができることを明らかにしたものである。

【キーワード： 進路指導 高等学校 進路選択 ワークシート コミュニケーション】

### 主題設定の理由

進路指導は教師にとって重要な仕事であり、特に3年の担任にとっては、生徒が納得できる進路に導くことが、最大の責務といっても過言ではない。それには、生徒自身が自分の特性を理解し、同時に担任も生徒の特性に気づく必要があると思われる。

4月に学校全体で行った教育相談アンケートをデータ化したところ、全学年とも、進路と成績の悩みが半数を占めることがわかった。これは、今の高校生は進路を真剣に考えていないと言われているが、実際は考えていないのではなく、どう進路に向き合っていけばいいのかわからないだけではないかと考える。時代が豊かになり、ゆとりと情報が増え、職業選択の場面においても考える余裕がでてきた結果であると思われる。

本校は県内唯一の女子商業高校であり、本学級27名のうち、進学希望は7名であり、残り20名は就職希望である。就職希望の生徒に対する4月の進路相談では、希望職種がはっきり見えていないため、どうしたらよいかかわからないと答えた生徒が15名（75%）もいた。

生徒に「自分に合った職業についてほうが、楽しい人生を送れる可能性が高い」ということを示し、そのためには自分について考えることが大切であることを理解させ、同時に教師も生徒の特性を知ることができれば、生徒一人一人に合った支援ができるであろうと考えた。

そこで、作業時間15分程度の独自に工夫したワークシートを作成し、活用することにより生徒自身に自分を見つめさせ、そのワークシートを基に、担任が生徒とコミュニケーションを図り、効果的な進路支援を行うことにより、生徒が自分に合った職業選択を考えられるようになると思い、本主題を設定した。

### 研究のねらい

独自のワークシートを作成し活用することにより、生徒が自分自身の特性を見つめながら、自分にあった職業選択を行えるようになり、また、教師もワークシートを基にして、効果的な進路助言ができることを、実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 ワークシート活動1 「花子を知る」シートにおいて、幼少期の自分と現在の自分について考えさせることにより、自己理解は職業選択をする過程において、重要な要素であることに気づくであろう。
- 2 ワークシート活動2 「つぶやき花子」シートにおいて、ワークシート1の内容をデータ化して、記載することにより、クラスメートの進路に対する考え方を知り、自分の進路についても参考になるであろう。また、自分の働いている将来の姿をイメージさせることにより、働くことの意義を再確認するであろう。
- 3 ワークシート活動3 「知って得する」シートにおいて、沢山の職業について、興味・関心を基準に分類させることにより、生徒が自分の特性に気づき、進路選択時において自分に合っているかどうかという視点でとらえることができるであろう。
- 4 ワークシート活動4 「自分の価値を知る」シートにおいて、自分の価値について書き込ませることにより、高校時代の部活動や資格取得が、自分の価値としてあげていることに気づくことができるであろう。そのことにより、自分の希望する職業につくために必要とされる努力に気づくことができるであろう。
- 5 ワークシート活動5 「もう一度自分を知ろう」シートにおいて、現在の自分の心境や社会人になるにあたっての今後の過ごし方などを書かせることにより、生徒自身が職業に対する変容に気づくことができるであろう。
- 6 ワークシート活動6 「泣きなくなったら読まずにいられない」シートは、就職したのち仕事に挫折しそうなになったときのために、担任としてのアドバイス、また、現在の自分から半年後の自分に宛てた手紙を書かせておくことにより、就職後の支援になるであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え

#### (1) 「相互交流型ワークシート」について

作業時間は、生徒の負担にならない15分程度のもので、SHRやLHRを使い実施する。担任だからこそできる質問をコミュニケーション形式に工夫するとともに、生徒が自己を見つめ直すことに視点をおいて作成したワークシートである。

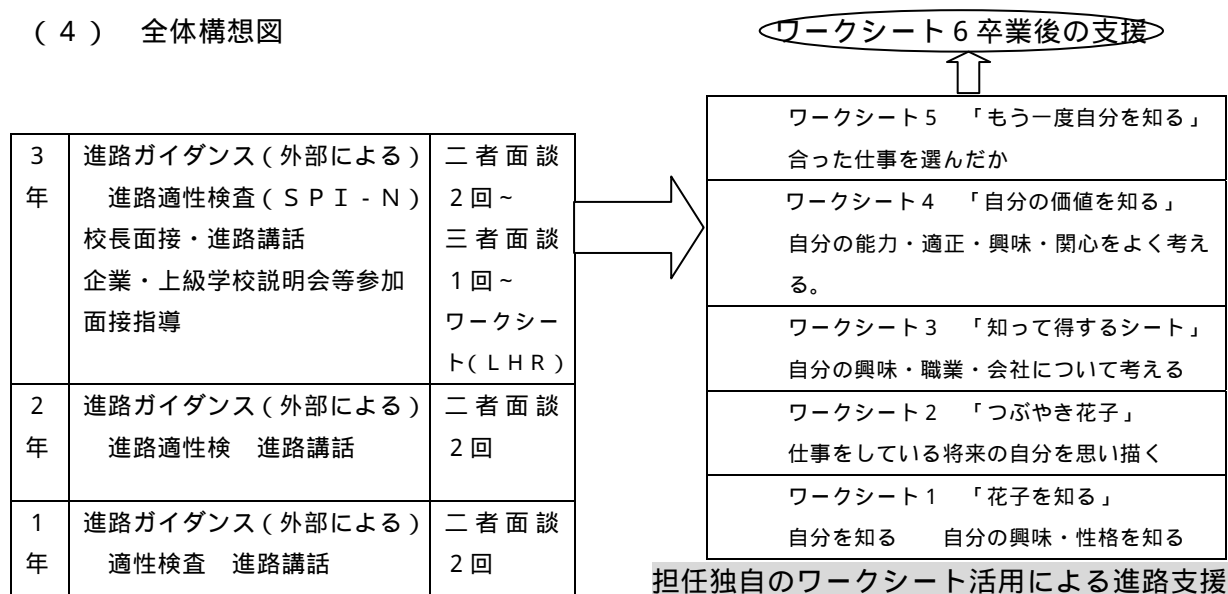
#### (2) 「担任が生徒とコミュニケーションを図りながらの進路支援」について

高校における進路相談は校内で定期的に行われる進路面談が中心であり、時間も限られている。そのため消極的な生徒とは、コミュニケーションをとる機会が少なくなりがちである。そこで、このワークシートを活用することにより、担任と生徒の進路に関する効果的な話し合いができ、進路支援がしやすくなると考える。

#### (3) 「自分に合った職業選択」について

職業選択をする際には、「給料」「仕事の内容」「通勤時間」「福利厚生」「会社の雰囲気」等、多くの観点考えられる。これらの観点は個人によって重視する度合いが異なるが、それらを含めて生き生きと楽しくできる仕事こそが、自分に合った職業である。自分に合った職業を選ぶには、まず自分を知ることが第一であると考えられる。

(4) 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

学級全体および抽出生徒A子のワークシートの記述内容、活動後の生徒の感想の分析を行い、その変容をとらえた。

A子は、アルバイトに熱心な生徒で、無理してまで、就職はしたくないという考えを持ち、フリーターでもいいと考えていた。

(1) 幼少期の自分と現在の自分について考えることにより、自己を見つめることができ、自分の特性を探り、自分に合った職業選択をする意識が生じたか。(見通し1)

ア 実践の概要

ワークシート活動1は5月中旬に実践し、過去の自分について、「幼児期の自分の印象は?」「過去の自分の出来事」「小学校時代に大きくなったら、なりたいと思っていたこと」「中学校時代に熱中したことは?」等の質問をし、自分を振りかえらせた。また、現在の自分をみつめさせるために「自分にとって好きな時間」「苦痛な時間は」「将来も働ける?」「今の自分の何とかなしたい点は」「親子の会話」「高校を早く卒業したい?」等の質問を工夫した。

イ 結果と考察

「こんなシートは久しぶり」「楽しかった」「また、やりたい」「昔の自分を思いだした」などの感想が、活動後に聞こえてきた。「日記をつけていますか?」の問については

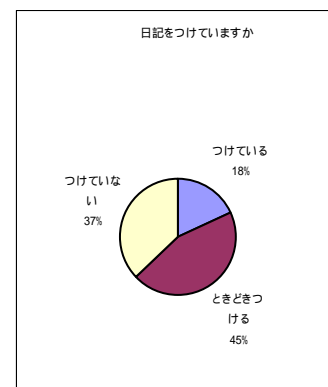
資料1のようになった。日記をつけることは自分と向きあうことになると考え、自己を見つめるためにも、日記を書くことを勧めた。その結果、日記をつけたことのない生徒のうち、「これを機会に、日記をつけてみようと思う。」と前向きに考えた生徒が80%であった。

「できるだけ働きたい」と考えている生徒が81%いたが、経済的理由が一番多かった。

「あなたにとって寂しい時間」何かという問いに80%が一人で家等にいる時間と書いている。そこで一人でいる時間こそ自分を見つめる貴重な時間であると、クラスに投げかけた。

「悩みぱりーず」欄では、就職の職種について悩んでいる生徒が45%を占めた。A子は小学校時代にマーチングをしており、歌を歌うことも得意で、リーダー的な生徒であったことを知り、現在のA子と違うA子をワークシートの

資料1



中に見た気がした。このシートを基に過去のA子を褒め、今も頑張れるはずとアドバイスをした。資料2はワークシート1「花子を知る」よりA子の抜粋である。A子は就職希望の生徒であるが、4月の面談時において、自分に合った職種が何かわからず悩んでいた

以上のようにワークシート1の活動は、生徒が自己をみつめる一つの機会になり、担任がそのシートを活用することによって、個々の生徒と進路についてのコミュニケーションが図れたと考える。 **資料2**（ワークシート1「花子を知る」A子）



(2) 自分の働いている姿を想像しながら、働く意義を考えることができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

ワークシート1を基に、6月上旬にワークシート活動2を実践した。前回のシートの内容からクラス生徒の様子を取り出し記載し、離職・フリーターについて個々の意見を記入させた。また、働く理由や小・中学校時代の夢がなぜ変わってしまったのか、「卒業してすぐの自分は何をしているの見える」「30歳の自分はどんな感じで働いている」等、将来の自分が働いている姿をイメージさせ、働くことについて考えられるワークシートの内容に工夫した。

イ 結果と考察

就職ができるかどうかの悩みの多いことが、ワークシート1の結果からわかったので、どこでもいいから就職すればいいという考えではなくここで働きたいという考えに変えてみようという「花子のつぶやき」をワークシート2に記載した。そのつぶやきに対して、A子は「やっぱり就職したい気持ちになった」と記述しており、A子の職業に対する変容が見え始めたと考える。他の生徒のワークシートからも「離職者にならないように努力する」とか「やりがいのある仕事を探す」などの言葉が見られ、職業を見つめるきっかけを与えることができたと考えられる。また、働く自分をイメージさせることにより、単に給料のためだけでなく、好きなことを仕事にしたいとの言葉もみえはじめ、仕事に対する前向きな気持ちを育成していくのに効果的であったと考える。

(3) 職業を細かく分類することにより、自分の興味・関心について特性があることに気づくことができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

6月下旬に実践したワークシート活動3では、仕事大研究として、性格別に分類した沢山の職業を示し、興味があるかどうかを × で記入させた。企業についても生徒の興味や関心のあることを細かく記入させた。また制服の有無や、通勤時間場所、会社の規模なども、分類し、本人の得意分野や苦手なことを聞きだす工夫もした。これらについて × 式で質問に記入させ

た。

#### イ 結果と考察

生徒自身が自分の興味や関心の特性に気づき、どんな職種を選択すれば生き生きと仕事に取り組めるかについて考えさせることができた。担任は ×式で記入させた項目を参考にすることで、生徒が関心を示しそうな求人を、求人票の中から絞って紹介することができた。A子はできることなら、正社員で就職したいという気持ちが強くなり、人と触れ合う仕事に興味をもっていることや、小学校時代の活動以来、華やかな制服にあこがれており、バスガイドも職業選択の一つとして考えることを勧めた。

(4) 自分に合った職業につくための、自分の価値が明らかになったか。高校時代に取得した資格が活かされたか。また、今後に必要な努力が何か見えたか。(見通し4)

#### ア 実践の概要

生徒が自分の価値を考えて数値化し貸借対照表にする、ワークシート4の実践を9月に行った。自分自身の価値を確認することにより自分の高校時代における資格取得や部活動経験がいかに価値があるか認識できるように工夫し、さらに自分の得意分野を探しだせるよう工夫をした。

#### イ 結果と考察

貸借対照表に記入することにより、自己価値を客観的に確認することができた。生徒は自分の価値を数値化する作業にとまどっていたが、資格や部活だけでなく、遅刻・欠席・清掃活動を価値として計上する生徒もいた。欠席・遅刻が多かったことを負債にあげ、社会人になったら休まないようにしたいと書いている生徒も見られた。自分の価値を活かせる職業に就くという点で効果的であり、同時に、負債にあげた部分を修正しようとする気持ちも数人の生徒に見られた。

(5) 社会にでる前に、もう一度自分について見つめさせることができたか。職業に対して心構えがはっきりしてきたか。(見通し5)

#### ア 実践の概要

ワークシート活動6では、現在の自分の心境や社会人になるにあたっての、今後の過ごし方などを書かせる実践を10月に行った。内定者は採用後の自分に必要なことを見つけ、未定者はもう一度自分を見つめ直す良い機会になったと思われる。

#### イ 結果と考察

主な質問の抜粋	多数いた記入例
あなたがなぜその職種(上級学校)を選んだのですか?	自分の興味あることだからできるとおもって選んだ。
本当にその職種(上級学校)が自分に合っていると思う?	合っていると思う
受験した企業(上級学校)について、今も変わらずに入社したい?	思っている 78% (不合格になったけれどまだその会社に入りたい。との記入もあった)
それともどっちでもいい?	11%
それともやめたい?	11%
今、一番欲しいものは?	合格通知
ワークシートをして、自分に合っている職業が理解できましたか?	作業が楽しかった。ためになった。できた。

「なぜ、その職業選択をしましたか?」「ワークシートが役にたちましたか。」という問には、M子は資料3のように、自分に合う職業を見つけだした。4月初めの職業に対する気持ちと現在の気持ちには、大きな変容がみられた。

### 資料3

先生に勧められて、自分の気持ちが強くなった。自分に合っている職業が見つかったと思う。自分が選んだ仕事は自分にぴったりだ ガイドさんの制服が今一番ほしい。 A子

### 資料4 B子のワークシート

今、一番ほしいと思っている商品と理由以外では何人ですか？

家族の合格通知

最近、一番うれしかったこと・楽しかった事は何ですか？

尊敬している人に関われたこと

今、進路を探り迷って悩んでいること中、これからくる事などについて考えていること何でもいいから、書いてください。

自分は納得してこれからの道を歩きたいと確信できた。人のために役に立ちたいのが、夢で、夢を実現するために、この就職活動中に色々な人がいた。これが、自分の信頼されるように行動した。一歩ずつ進んで、人を信頼できる立場にしていきたい。

では、最後に花子をやってみて、すこしは自分や仕事の理解できたかな？自分のにあっていない職業がすこしは理解できた？

たとえば、人と話すのが好きだから、接客・販売をえらんだとか、自分の性格と進路について書いてください。

花子をやってみて、自分の長所や短所、得意なことがよく分かり、こんな仕事にしたいが、今の仕事に合っているかというところがよく分かりました。又、花子をやってみるときは、とても楽しかった。

では、最後に花子をやってみて、すこしは自分や仕事の理解できたかな？自分のにあっていない職業がすこしは理解できた？

たとえば、人と話すのが好きだから、接客・販売をえらんだとか、自分の性格と進路について書いてください。

花子をやってみて、自分の長所や短所、得意なことがよく分かり、こんな仕事にしたいが、今の仕事に合っているかというところがよく分かりました。又、花子をやってみるときは、とても楽しかった。

### C子のワークシート

あなたが選んだ進路は？

（事務 営業 販売（接客） 製造 コーポレート）

あなたはなぜその進路を選びましたか？

将来に向けて、自分の長所や短所が良く分かり、自分に合っている仕事に思えた。

本当にその職業が自分に合っていると思う？

少しは合っているけど、合っていない。

選んだ企業を今どう思っている？

本当にその企業に入りたいとも思わなかった。もうどこでも良かったらそれともうやめたい。進路を聞いて。

—、自分の長所や短所が良く分かり、自分の長所や短所が良く分かり、自分に合っている仕事に思えた。

### A子のワークシート

資料3、資料4から、ワークシート活動6の実践は自分を見つめ直すことについて有効だったと思われる。

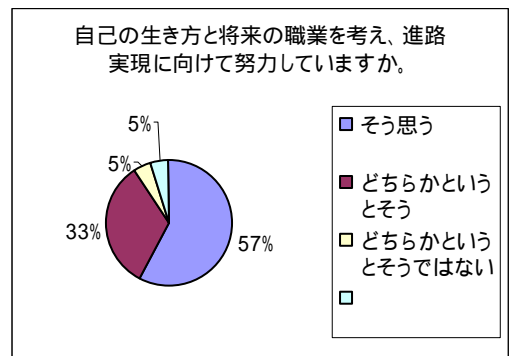
(6) 新しい社会への不安や研修中の辛さをすこしでも和らげられるように、生徒の心理面のケアをしたいと考える。担任からの言葉の他に自分から自分への手紙を入れて、卒業後の支援とし、2月に実践する予定である。(見直し6)

#### 研究のまとめと今後の課題

#### 1 研究のまとめ

ワークシート1から6の作成を通して、生徒から感想やアンケート調査を行ったところ、資料5の示すとおり80%が努力をしていることが分かった。資料4の記述内容を見ると、自分に合った進路選択の支援ができたと考えられる。また、得られたワークシートから、今まで見過ごしていたクラス全体の状況も把握でき、個々の生徒に合う進路指導ができたと考える。生徒が「花子は今度いつするの」などとの声が聞こえ、反応は良好

### 資料5



であった。

これは短時間で実施できることや、生徒の負担が少ないために、積極的に参加することができたためだと考える。ワークシートを積み重ねていくなかで、生徒が働くことの意味を見直し、働く意欲が生まれたことなどの直接的な効果の他に、担任とのコミュニケーションを通じて、自分に自信を持つことができたり、進路の不安が薄らぐといった間接的な効果も生じたのではないかと考える。これらのワークシートを通して、生徒は普段では、担任と面と向かって言えないことや本音を言いやすかったのではないだろうか考える。市販のワークシートとは異なり、特に担任と生徒の信頼を深めることに効果があったと考える。

進路を決める上で、生徒が自分の特性をよく理解することは進路選択に重要な要素であり、また生徒に進路指導をする上で担任が生徒を深く知ることが必要である。高校時代は職業と自分の関わりを考える時期であり、自分がどういう職業に興味を持ち、どういう職業分野ならやっていく自信があるか考える機会としてもこれらの独自ワークシートの活用は効果的であったと考える。

## 2 今後の課題

担任独自のワークシートとして、質問項目や内容の修正がさらに必要である。

<参考文献> キャリア・ガイダンスANDキャリア・カウンセリングプログラム 根本著